

学校図書館支援センター通信 NO.140 1月号



令和元年度 市川市学校図書館支援センター(市川市教育センター)

1月定例研 学校図書館部会

国語科・音楽科「えをみて、おんがくをつくってみよう！」

市川市立幸小学校 第1学年 植草 彩夏 教諭



1月8日(水)に定例研が行われ、学校図書館部会では、市川市立幸小学校の第1学年植草学級にて、国語科・音楽科の授業公開がありました。今回の授業は、絵本からイメージを広げ、音楽で表現する学習でした。今回、エリックカール作・絵、もりひさし訳「うたがみえる きこえるよ」の絵本を使用しました。この絵本は、はじめの1ページだけに文字があります。残りのページは、色と形で表現された絵が描かれています。

絵本の冒頭に書かれている音楽家の「絵本のなかのうたをみてごらんさい」というセリフを受けて、色や形から音を想像して、『1年4組の「うたがみえる きこえるよ」を作ること』

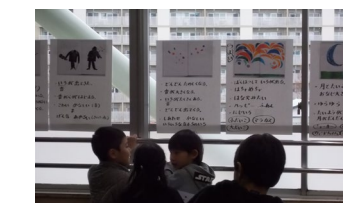
が、本時の学習のゴールでした。2～3名のグループを作り、それぞれの場面を担当し、授業の最後に全員で通し演奏を行いました。植草先生がプロジェクターを使って映し出した、見開き1ページの大きな絵に合わせて奏でる子供たちの演奏は、聴いている人たちが温かい気持ちになる音楽でした。

このような素敵な音楽を作りあげることができたのも、先生の丁寧な事前指導があったからです。今回は、先生が用意した13種類の打楽器の中から、子供たち自身が、場面に合わせた楽器を選び、演奏します。事前に一つ一つの楽器の演奏の仕方や特徴を丁寧に学習していたので、それぞれの楽器の持ち方や打ち方を理解して演奏し、音楽を作っていました。

また、絵本の絵から想像を膨らませるために、色から感じるイメージを話し合い、一つ一つの場面のイメージを広げていきました。学級で話したことは、掲示物にまとめられ、音楽づくりの参考になっていました。

絵が中心となった絵本を活用することで、子供たちの想像力が育まれ、主体的に音楽づくりを行うことができていました。

授業の最後に、「心の中で輝いていることを願っています。」とおっしゃっていた先生のお言葉のように、子供たち一人ひとりの心に残る学習でした。



【今回用意した打楽器】

・トライアングル ・すず ・カスタネット ・トライアングル
・小太鼓 ・大太鼓 ・タンバリン ・木琴 ・鉄琴
・マラカス ・ギロ ・ウィンドチャイム ・ウッドブロック



【学習の経過がわかる掲示物】

絵からお話を想像し、場面の様子に合う楽器も一緒に考えていきました。
掲示物があることで、音楽づくりの助けになっていました。

図書館の窓から ～ひろげよう！図書館の輪・リレー執筆～

今年度の東国分中学校は若手の先生が多く、学校司書の役割についてお話する機会をいただきました。このことをきっかけに、昨年他市から異動してきた先生が、ネットワーク便を利用して授業をしました。

4年目研(※1)の先生とは、大まかではあるものの、授業内容や必要な本について話し合いました。他には、たまごプロジェクトや教育実習の大学生に、市川市の学校図書館の取り組みを宣伝しています。

校内の取り組みとして、教科横断的な学習のための学校図書館活用を模索しています。ただ「学校図書館を利用してください」と言うだけでは、授業での利用に繋がらないのだと改めて感じました。出来るところから学校図書館の利用を増やしていきたいです。

【市川市立東国分中学校 学校司書 酒井 亜由美】



2学年理科『恐竜図鑑』の利用



2学年社会科(4年目研) 各班発表の様子

※1

「4年目研」とは、教職経験4年目の教員を対象に行う「授業力アップ研修」のことです。

この研修会では、学校図書館を活用した授業づくりについて学びます。

「国際学習到達度調査(PISA)」から考える新聞活用

2018年に実施された「国際学習到達度調査(PISA)※2」の結果が、先月発表されました。今回の結果では、「読解力の低下」が課題として注目されました。特に「テキストから情報を探し出す問題」「テキストの質と信ぴょう性を評価する問題」「自分の考えを他者に伝えるように根拠を示して説明すること」が課題として浮き彫りとなりました。「PISA 調査結果を踏まえた文部科学省の施策」の一つに、「言語能力の育成に向けたカリキュラム・マネジメントの充実」があります。具体的な内容の一つとして、「グラフや図表を読む、実用的な文章(新聞や広報誌等)に触れる機会の充実や各教科を支える語彙の確実な習得(辞書や辞典の活用等)のための各教科等の特質に応じた言語活動等の充実」が挙げられ、ノンフィクション(小説や物語)に加えて、新聞や雑誌など幅広い種類の文章に触れることの重要性が改めて明確になりました。

市川市の小・中・義務教育学校には、複数の新聞社より新聞が届き、4年生以上の各学級に配付されています。学校によっては、こども新聞を購読して、学校図書館に置いてあります。

これらの新聞を活用して、子供たちに少しでも新聞に興味を持ってもらうために、子供たちの目に留まる場所に新聞を置いたり、新聞の切り抜きを掲示したりと様々な工夫が各学校でされています。また、気になるニュースの記事を選んでスピーチを行ったり、新聞スクラップをしたりするなど、新聞を活用した取組が見られます。小学校5年生の国語科では、「新聞を読もう」という単元があり、新聞の特長や構成について学ぶとともに、「新聞の読み比べ」を通して、同じニュースであっても新聞社によって表現の仕方に違いがあることを学習します。中学校2年生の国語科では、「新聞の投書記事を書く」という単元があります。新聞などから課題を見つけて自分の考えを持ち、構成に気を付けて説得力のある文章を書く学習をします。

このように教科を通して、また朝の会の時間を活用してなど様々な場面で新聞に触れる機会を意図的に設けることで、子供たちが新聞に興味を持つきっかけになるのではないのでしょうか。

※2 「国際学習到達度調査(PISA)」とは、2000年から3年に1度行われ、義務教育で得た知識を実生活に生かす力を問う調査である。前回の2015年調査より、コンピュータ使用型調査に移行。日本では、高校1年生が対象。

【参考資料】 文部科学省・国立教育政策研究所ホームページ 「OECD 生徒の学習到達度調査2018年調査のポイント」

『学校図書館支援センター通信』は、市川市教育センターホームページでもご覧いただけます。
市川市学校図書館支援センター(市川市教育センター)
〒272-0015 千葉県市川市曳高1-1-4
TEL 047-320-3335 FAX 047-320-3352
<http://www.ichikawa-school.ed.jp/index.html>

